平成九年度（第二十四回）武蔵御嶽神社新年奉納俳句入選作品集

奉納式　平成九年二月十一日
選者　来住野　臥丘

特選

一席　巫女舞の楽流れ来る磴のぼる　飯能　横手　喜川
二席　闇つなぐ声麓まで初詣　あきる野　翠川　好道
三席　歩の緩むいつかまんさく見しあたり　青梅　野村　春子
四席　初山を起こす木霊のはね返り　入間　石井　けい子
五席　講の碑に父の名のあり初詣　青梅　諸井　末男

秀逸（出句順）

初電車晴着の袂膝におく　青梅　橋本　曙声
息白し一歩一段初詣　昭島　小倉　弓汀
磐座の芽吹き促す神鼓かな　町田　中川　龍造
初日の出栗鼠も顔出す杉の洞　青梅　田中　郷路
響きもつ禰宜の拍手初神事　入間　荒井　恵邦
石獣の声無き啼び冬の宮　入間　大野木由紀夫
土産茶屋炬燵の席あり宮参道　青梅　井上登志子
降る雪に胸をそらせて銅の狛犬　調布　中西道枝
見覚えのあたりに見えず冬桜　福生　渋谷昭子
チョウゲンボウ琴沢渓の陽に紛れ　青梅　佐久間玄寿

佳作（出句順）

お年玉見せ合う姉妹頬寄せて　八王子　中島キヨ
鴬笛吹く子前後に初詣　瑞穂　長澤民之助
御慶述べケーブル乗務交代す　青梅　原島康典
大鳥居大地にしかと年迎う　八王子　水越一夫
小寒の鏡の如き神の床　青梅　榎戸由造
初詣手話の十指を合わせけり　狭山　矢島清
冬苺七代の滝の道しるべ　入間　高山しんじ
一と神事済みたる御師と炉をかこむ　入間　増岡蛍雪
霜柱踏む愉しさの裏参道　青梅　村井英世
山頂や六十路の鼓動初日待つ　入間　中島美都里
元朝の神苑声の満ち溢る　秋父　山中永大
元朝や日輪力充ち昇る　羽村　横手タマエ
一筋の雪解け水や鹿の骨　昭島　高橋久司
初雪を掃く老御師に労らわれ　青梅　須崎雲峰
冬麗の岳に神鼓の一打あり　立川　神山佳子
雪晴れや師の句読み上げ碑に触れて　立川　島節子
冬芽出しいの実一つ掌の中に　福生　木村ヒサ子
杉山の雄々しき闇や淑気満つ　立川　宮脇幸子
凍道にこけてすがりぬ講中碑　福生　加藤よし江
初詣天頂駆ける獅子星座　青梅　笹本達夫
分身の杖もリフトに初詣　臥丘　横手喜川

選者詠

平成九年度奉納俳句選評

奉納俳句も二十四回を数えることになった。今年の特長は応募者の範囲が広くなり、二十三区並びに近県からの応募者も増えたことであり、句数も千七十一句にも達したことである。誠に結構な事であるがスペースの関係もあり上位作品のみ触れることにした。

特選一席　巫女舞は御嶽神社では六月十五日と九月十五日の「雅楽と太々神楽一般公開」と十月一日の「太々神楽一般公開」の日だけで他は信徒の集まり（講と呼ぶ）の申し込みにより行うのが原則と聞くから、この作品はたまたま講に依る申し込みに行なわれた太々神楽の日に初詣をされたものと思う。

俳句としては無季の句に属するが、神苑の厳粛さが、巫女舞の楽の流れに感じられる作品となった。私自身では無季俳句を意識して詠むことはしないが無季俳句も良いものは良いと容認しているので、無季を承知の上で採った。

ただ難点を言えば短詩形の俳句に動詞が二つ使われ、その動詞のリフレインも効果的でなく使われ一考を要する所である。

二席の句は中七下五の闇の中で見えない初詣の人の列を、声で見せた巧みな表現に実の伴なったことが良かった。

三席の句は「歩の緩む」の助詞がのであってよかった。「歩を緩む」では意識的で句意が浅薄になる。歩るき始めて丁度疲れを覚える辺で前に万作を見た記憶が蘇ったのである。この句には万作は咲いていないが、ほのぼのとした万作の花が充分感じられる。

四席の「初山」の句は山始めの事で正月に行なわれる基朴な山の行事である。木を伐り酒肴を供えて山仕事の無事を願うもので、斧の音柏手の響き人の声などが隣りの山にまで届き、木魂となって返って来るのである。生新な句。

五席の句は特別初詣の句とは限らないが、初詣であって特に信心の厚かった父を身近に感じたものである。

以下秀逸十句の中から何句か抽出すると、「息白し」の句は一歩一段で体調的のもの、年齢的のことなど窺われ懸命な初詣の心が伝わる。幸いリズムがよく安堵感が出た。磐座はいわくらと読む古語で神の坐す所を指し、この作では御岳山のこと。石獣の句は狛犬を言ったものと思うが、石獣は秦・漢以後、墓前に魔除けに立てた獣の像であり、又これに似た石人もあるが、これは高麗から来たもので不死を祈ったものである。チョウゲンボウは隼科の鳥で高山に棲息し冬季に低地へ来ると言う。御岳山あたりでは見ると聞く。

神社の杜（八）

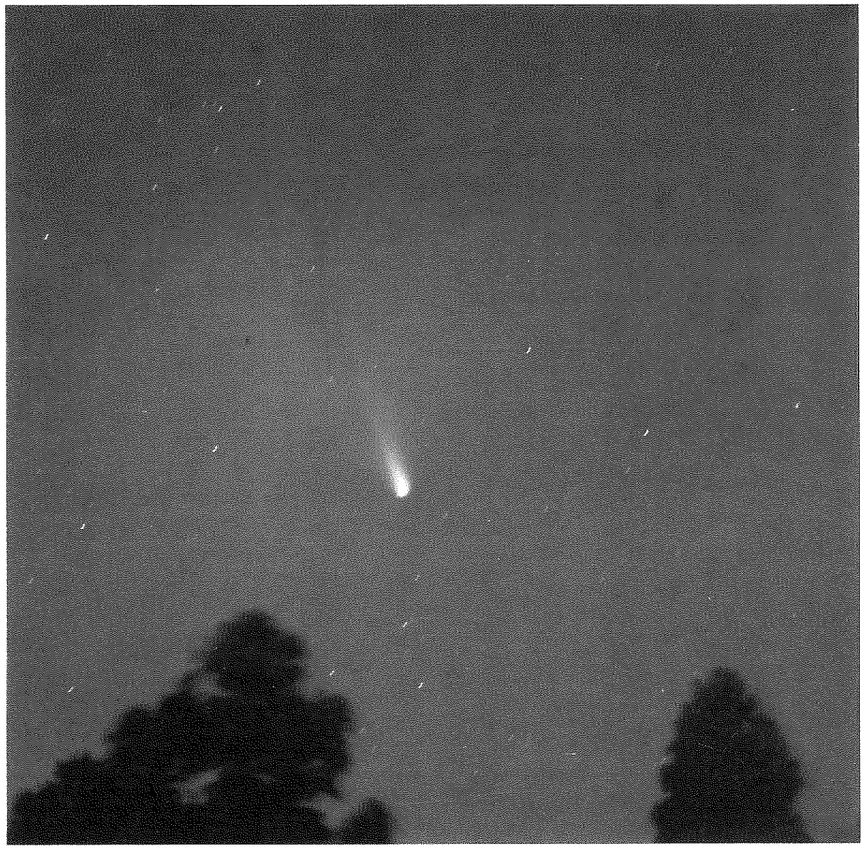
ビジターセンター　所長　片柳　茂生

『草木みな よく言語り』

（帚星の巻）

よ！ムサ公。今日は何を聞きにきた？えーなんだって、この頃やけに明るい星が明け方と夕方に見えるけど、あれは天変地異のまえぶれかって？そんなことはねえと思うけどな。あの星は『ヘール・ボップ彗星』っていってな、アメリカのヘールさんとボップさんが同時に見つけたんで二人の名前をとった帚星（ほうきぼし）よ。

ところでよ、ムサ公『ハレー帚星』っていう名前は聞いた事があるだろ。『ハレー彗星』は七六年周期で地球に近づいてんだが、今見えてる『ヘール・ボップ彗星』がこの前地球に近づいた四二〇〇年も前で、今度近づくのは二五〇〇年後ってんだから気の長い話だよな。こんなに長生きしているわしだってこの星を見るのは最初で最後だーな。それによ、去年も百武彗星っていう、でかい彗星が近づいたじゃねーか、それよりももっとでかいってんだから腰を抜かしちまうよ。



彗星の本体は『汚れた雪だるま』から出来ているっていわれてな、太陽に近づくと、それまで凍っていた雪だるまが溶け始めちまう。溶けて蒸発したガスと一緒に雪だるまについていた塵も吹き飛ばされるんだな。そんでもって、その塵が太陽の光を受けて輝いてるのが彗星の尾っぽよ。この尾っぽが空の半分くらいまで長く伸びた彗星もあったんだぜ。

ま、二五〇〇年に一度の星空のショーだからよ、ゆっくりと見物しよーじゃねーか。